

テュートリアル課題 取れない疲労感

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032230

2013年度 Block. 5

課 題 No.2

課題名：取れない疲労感

課題作成者：血液内科学

今井陽一



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

佐藤 誠さんは、39歳の男性で昨年2型糖尿病の診断を受けて、糖尿病センターに通院しています。約1週間前より疲労感を感じました。数日前より階段を上るときに息切れがするようになり、鼻血も止まりづらくなりました。そこで糖尿病センターを受診しました。糖尿病センターの採血で貧血、血小板減少が認められ、血液内科を紹介され受診しました。

シート2

血液内科初診時 体温 37.3°C、脈拍100/分 整、血圧132/80 mmHgでした。眼瞼結膜に貧血、四肢に紫斑・出血斑が認められましたが、リンパ節腫大、肝脾腫はみられませんでした。血液検査を受けました。

シート3

血液検査で末梢血に異常を認め、白血病が疑われて血液内科に緊急入院しました。骨髄検査を行ったところ、ミエロペルオキシダーゼ陰性の芽球が88%を占めていました。診断確定のため、骨髄穿刺液の細胞表面抗原解析、染色体検査が行われました。

シート4

染色体検査などの結果から、診断が確定しました。担当医から診断や治療方針について文書で説明を受け、抗ガン剤による化学療法が始まりました。副作用として血球減少、吐き気などの副作用がみられましたが、骨髄、染色体の検査でも異常がみられなくなりました。担当医から抗ガン剤による化学療法だけでは、再発の可能性が高いとの説明を受けて、HLAの適合した骨髄バンクのドナーからの骨髄移植を受けることとなりました。

シート5

佐藤さんは、移植後GVHD（移植片対宿主病）が発症しましたが、ステロイドホルモンの投与などで改善し、外来通院で経過をみるようになりました。外来通院中に感冒症状があり、近くのクリニックで抗生物質を処方されました。一時解熱しましたが、1週間後に夕方38°C台の発熱がみられ、救急外来を受診しました。

救急外来では、白血球数 $5.49 \times 10^6/\text{ml}$ 、CRP 5.36 mg/dlで経口抗生物質を処方され、帰宅しました。帰宅後39.4°Cに発熱し翌朝トイレで動けなくなり、救急車で救急外来へ搬送されました。受診時、血圧78/50 mmHgと血圧低下を認め、ICUに入室しました。入室時、低酸素血症を認め血液培養から、大腸菌が検出されました。